

伊佐市立羽月西小学校研究公開

1 研究主題

運動する楽しさや喜びを味わい、進んで運動に取り組む西っ子の育成
～「つながり」を大切にした取組を通して～

2 全体会Ⅰ（研究発表）

羽月西小学校では、令和2年度からの2年間にわたり鹿児島県教育委員会「たくましい“かごしまっ子”」育成推進事業推進校として、全校体制で研究・実践に取り組んできました。



研究発表では、一つ一つの具体的な取組や実践の「つながり」を強く意識することで、体育科の「見方・【岩水教諭による研究発表】考え方」を基にした「3つの資質・能力」を育成するための単元構想、一単位時間の指導過程の作成、個に応じた支援の在り方など授業づくりに役立つことが発表されました。また、「つながり」の意識をもって取り組んできたことが、相乗的に新たな効果を生み出したことなどが述べられました。主な研究内容は、次のとおりです。

【研究の実際】

1 仮説1（授業改善によるアプローチ）について

教科体育において、全体を見通した単元のデザインや一単位時間の指導過程を構築し、授業を工夫・改善する。

- | | |
|----------------|-------------------|
| (1) 単元の指導計画の作成 | (2) 一単位時間の指導過程の作成 |
| (3) 板書の構造化 | (4) ICT機器の活用 |
| (5) ワークシートの活用 | (6) 体育ファイルの活用 |

2 仮説2（授業外によるアプローチ）について

生活の中において、一人一人の体力の課題を常に意識させ、様々な体力づくりの活動や手立てを工夫する。

- | | |
|-------------------|-----------------|
| (1) 体力向上プログラムの作成 | (2) 「一校一運動」の取組 |
| (3) 仲良し体育の取組 | (4) 体育的行事での取組 |
| (5) KOBA式体幹トレーニング | (6) 校内掲示（環境づくり） |

3 仮説3（家庭や地域との連携によるアプローチ）について

(1) 家庭との連携

- | | |
|-------------------|-----------------|
| ア 「生活リズムチェック表」の活用 | イ 長期休業中の親子運動の推進 |
| ウ 体育的行事への保護者参加 | |

(2) 地域との連携

- | | |
|------------|-----------|
| ア 学校応援団の活用 | イ 地域人材の活用 |
|------------|-----------|

3 公開授業

公開授業では、川原維史教諭によって、3・4年生のゴール型ゲーム「パスをつないでシュートを決めよう！ポートボール」が公開されました。

授業が行われた体育館は、壁いっぱいに体育学習や体力向上に必要な資料が数多く掲示されていました。また、児童の正面には、「単元に関わる内容」、「本時の学習に関わる内容」、「これまでの学習に関わる内容」など児童の主体性や積極性を引き出すために可視化された、構造的な板書が施されたホワイトボード等が準備されていました。

授業の導入段階では、『きらきらタイム』で主運動に繋がる基本的な動作を確認した上で、前時に録画した映像を基に、「うまくシュートが打てなかった場面」を振り返りました。教師の「なぜうまくいかないのか」との発問に対し、児童からは「あわててしまう」といった反応が返ってきました。児童の必要感から「ルールや場を工夫する」というめあてに向けた思考が始まりました。また、今回の授業にも『学校応援団』のメンバー4人が参加していました。準備運動からゲームまで児童と一緒に汗を流していました。時には優しく励まし、時には大きな声でアドバイスをする姿が印象的でした。さらに、川原教諭が一人一人、個に応じて、その子に寄り添った声かけ指導を終始行っていました。



【研究授業の様子】



【学校応援団と楽しく活動】



【ワークシートに丁寧に振り返る】

4 全体会Ⅱ

授業研究では、参観された先生方から多くの感想や質問が寄せられました。特に『学校応援団』を活用するための段取りや『きらきらタイム』の中身についてなど、それぞれの学校の実態に合った実践できる内容についての質問が多く出されました。

～参加者の感想から～

[研究発表について]

- ・ 家庭で取り組む内容の見届けなど、協力や理解を得るために PTA 全体会で説明することで共通理解・共通実践が図られ、運動習慣の定着につながると感じた。
- ・ 地域応援団の活用、体育を楽しむ様々な活動の工夫、体育館の掲示等、家庭への働きかけなど大変参考になった。

[研究授業について]

- ・ 子どもたちが課題を発見し、考え、試してみる流れがしっかりとっていて、子どもたちも見通しをもって学習活動に取り組んでいた。
- ・ ルールや場の工夫が大切にされていて、運動が苦手な児童にとっても、安心して参加できる授業であった。

(令和3年10月29日公開)